

報 道 資 料

平成25年2月22日（金）

件 名 岩国基地に関する協議会（第8回）の開催について
 概 要 このことについて、下記のとおり開催しましたのでお知らせします。

記

1 日 時 平成25年2月22日（金） 14:00～15:45

2 場 所 岩国市役所 特別会議室

3 主な出席者

岩国市：岩国市長	福田 良彦（ふくだ よしひこ）
政策審議官	村田 光洋（むらた みつひろ）
基地政策担当部長	杉岡 匡（すぎおか ただし）
国：中国四国防衛局長	渡邊 一浩（わたなべ かずひろ）
中国四国防衛局企画部長	松田 尚久（まつだ たかひさ）
山口県：総務部理事	小松 一彦（こまつ かずひこ）

4 概要

(1) 住宅防音工事の拡充

- 市は、いわゆる告示後住宅に対する防音工事が対象世帯の希望に沿って実施されてきていること及び今般の補正予算と平成25年度予算案において住宅防音工事のために相当の予算が確保されていることについて一定の評価をしつつ、一層の事業促進について要望し、中国四国防衛局は、「現下の国の厳しい財政事情の下、住宅防音事業に積極的に取り組んでおり、今後とも努力を継続したい。」と回答した。
- 市は、現下の財政状況が非常に厳しいことに理解を示しつつも、市民の安心・安全を確保するため、住宅防音工事の更なる拡充について要望し、中国四国防衛局は、「住宅防音工事の更なる拡充は厳しいものがあると認識しているが、市の要望は本省に伝えてまいりたい。」と回答した。

(2) 航空機騒音の状況

- 中国四国防衛局・山口県・市は、市内に騒音測定器を19基設置（局：10基、県：4基、市：5基）し、岩国飛行場周辺の航空機騒音状況の把握に努めている。
- 新滑走路運用開始後、平成22年6月から平成24年12月までの2年7箇月間の航空機騒音の状況は、市内の全ての地点においてW値が減少し、滑走路移設による騒音軽減傾向が継続していた。
- また、平成24年の航空機騒音の状況は、平成23年と比較して、市内の多くの地点においてW値が微増していた。
- 今後とも測定を継続し、騒音状況の把握に努める。

(3) 航空機の騒音規制措置

- 市は、岩国飛行場における航空機の運用時間の短縮（午後10時までの運用）について、早期に日米合意を得るよう要望し、中国四国防衛局は、「米軍の運用に関わることから、困難な事情はあるものの、引き続き、米側との間で協議を進めてまいりたい。」と回答した。

(4) 航空機の運用状況に関するモニタリングの強化

- ・ 山口県及び市は、山口県基地関係県市町連絡協議会が行うモニタリングにおいて、日米合同委員会合意等に違反する疑いのある飛行等に関する情報が把握された場合、必要に応じて事実関係の照会等を行うので、今後とも真摯に対応するよう要望し、中国四国防衛局は、「自治体からの照会等に対しては、今後とも、誠実に対応してまいりたい。また、MV-22オスプレイの訓練に関し、情報が得られた場合には、御説明してまいりたい。」と回答した。

(5) 米軍構成員等による事件・事故の防止

- ・ 米軍人による事件・事故の防止については、第一義的には米軍が取り組むべきものであるが、防衛省としては、隊員教育の徹底を始め、実効性の伴った再発防止策の徹底が重要であると考えており、関係機関と連携しつつ、引き続き、米軍人による事件・事故を根絶すべく努力する。
- ・ 市、山口県及び中国四国防衛局は、米海兵隊岩国航空基地の協力を得て、今後も継続して安心・安全共同パトロールを実施する。
- ・ 今後も継続して、米軍主催のセーフティブリーフィングにおいて、中国四国防衛局長や市長による説明の機会が得られるよう、中国四国防衛局は米軍と調整を行う。

(6) 民間航空の再開

- ・ 市及び山口県は、岩国錦帯橋空港開港後の利用状況が好調なことを紹介しつつ、更なる利用促進に取り組むことを表明した。
- ・ また、円滑な運用の継続について、国の協力を要望し、中国四国防衛局は、「今後とも、地元の要望等は関係機関に伝え、利便性の高い空港になるよう協力していく。」と回答した。

(7) 地域振興策等

- ・ 市は、引き続き防衛省の補助金等を活用し、関係住民の生活の安定と福祉の向上に寄与するために必要な事業を実施する。
- ・ 市は、今後とも事業が円滑に実施されていくよう、国の継続的な支援を要望し、中国四国防衛局は、「市と緊密に連携しながら最大限努力していく。」と回答した。
- ・ 市は、国による川下地区への貢献を評価しつつ、川下地区連合自治会、川下地区まちづくり協議会等からの要望も踏まえ、川下地区が落ち着いた暮らしやすいまちとなるよう、着実にまちづくりを進めるため、今後とも、具体的な計画について調整していきたいと述べたところ、中国四国防衛局は、「市からの具体的な要望を踏まえ、積極的に取り組んでまいりたい。」と回答した。

(8) その他

① 愛宕山地区における事業の進捗状況

- ・ 国立病院機構岩国医療センター及び特別養護老人ホーム灘海園については、それぞれ平成25年3月24日の開院及び4月1日の開園に向けて着々と準備が進められている。
- ・ 市及び中国四国防衛局は、愛宕山地区における事業が円滑に実施されていくよう、今後とも緊密に連携していく。
- ・ 市は、県道岩国玖珂線北側の約4,300㎡の土地について、市民も利用可能な施設を整備するよう要望し、中国四国防衛局は、「市の要望を踏まえ、御指摘の用地の利用方法について、引き続き、日米間で調整してまいりたい。」と回答した。

② 遊水池の一部埋立等

- 中国四国防衛局は、基地内遊水池の一部埋立等の概要について、次のとおり説明した。

- ・ 平成25年度より、基地の南側にある遊水池（通称：ペニーレイク 約28.9㏍）

の一部（約2.0㌔）を埋立て、航空機の支援施設を整備

- ・ この埋立に伴い低下する雨水排水機能については、基地の中央部分にある遊水池（通称：ダイヤモンドレイク 約3.4㌔）の埋立と同時にペニーレイク東側の土地（約5.8㌔）を掘削・拡張したことにより、遊水池の全体面積は増加することから、計画前と同水準の機能は確保される見込み
- ・ なお、ダイヤモンドレイクの埋立及びペニーレイクの拡張は、昨年12月末までに完了

○ 市は、基地周辺への影響を最小限に留めるよう要望し、中国四国防衛局は、「周辺に影響が出ることのないよう、適切に雨水排水機能を確保してまいりたい。」と回答した。

③ 日米交流事業

- ・ 中国四国防衛局主催の平成24年度日米交流事業については、3月2日、シンフォニア岩国において「IWAKUNI日米交流合同コンサート」を開催する。
- ・ 市及び山口県は、事業の効果をより高め、円滑に実施できるよう支援と協力を行う。

④ 川下旭運動広場の供用開始

- ・ 市は、中国四国防衛局の協力を得て、地元から要望されていた旧旭広場の代替施設「川下旭運動広場」の整備を完了し、平成25年3月3日に供用開始する。

5 市長コメント

安心・安全対策について国・県・市が共同して問題解決を図ることを目的に設立した本協議会も今回で8回目の開催となった。

国においては、本日の協議項目はもとより、安心・安全対策の中の達成できていない項目について、引き続き、誠意を持って取り組んでいただきたいと考えている。

昨年12月13日に開港した岩国錦帯橋空港については、好調な滑り出しに一安心しているが、今後とも気を引き締めて、更なる利用促進に取り組んでいくとともに、円滑な運用の継続について、国の協力を要望した。

来月以降、川下旭運動広場の供用開始（3月3日）、国立病院機構岩国医療センターの開院（3月24日）及び特別養護老人ホーム灘海園の開園（4月1日）が予定されており、市民の生活の安定と福祉の向上に寄与することを期待している。市としても、地域振興策4事業や川下地区まちづくり事業等の円滑な実施に努めてまいりたい。

先日（1月25日）、防衛大臣政務官から空母艦載機の移駐の遅延について説明があったが、安心・安全に関する国との協議は遅らせることなく、引き続き、多くの市民に納得のいくような結果を出すべく最大限の努力をしまいる所存である。

なお、これまで、基地内工事関係者の入門手続きの見直しについて要望していたが、基地内で工事に従事する予定のある方々、工事等契約済み企業のために資材を搬入する方々のパス入門手続きについて、今年3月1日から受付けを開始するとの説明が中国四国防衛局からあった。

これについては、基地入門時の手続きが簡素化し入門がスムーズになるなど、地元企業も望まれていた措置であり、市としても十分評価したい。